

当社では、CSR活動を一層推進させるために、ステークホルダーの声を重視しています。2012年度CSRレポートでは、アンケートに対して読者の皆様から計885件のご回答をいただきました。

そこで、2012年度に引き続き、いただいたご意見・ご質問のいくつかについて、当社の考えや取り組みを回答いたします。

Q 現場従事者の技術、技能向上が必要だと思うのですが、具体的にどのようなことをしているのでしょうか？



A 当社では企業理念である「確かなものづくり」を実現するため、常に現場の技術・技能向上に努めていくことが大切だと考えています。従業員教育に関しては「職場研修」「自己啓発」および「集合研修」を3本柱とする研修を実施しています。

「職場研修」は各自日常業務の遂行を通じて計画的かつ個別に、具体的な指導・育成を実施しています。「自己啓発」は公的資格の取得などに関する通信教育を修了者に対して費用全額補助で実施しています。「集合研修」は階層別(管理者、実務担当者など)に研修施設に宿泊して数日間にわたり各課程で研修しています。例を挙げますと新入社員研修、入社3年目中堅社員のフォローアップ研修、新任監督者研修などがあります。

その他、各部、支店単位でも、実地試験・施工を含めた研修を行っています。

Q CO₂排出量削減のため合材工場での都市ガス化や省エネ型バーナの導入は素晴らしいと思いました。コスト的にはどうなのでしょう？

A 省エネルギー型設備の導入は、CO₂排出量を削減するとともに燃料使用量も削減しています。そのため、結果としてコスト削減にもつながっています。合材製造数量にもよりますがバーナ導入コストを1~2年で回収する場合があります。

2012年度末現在、都市ガス化した合材工場は13カ所、省エネ型バーナの導入は60カ所となっていますが、今後も計画的に増やしていくことで、環境保全とコスト削減の両立に取り組んでいきたいと考えています。(本文P.13をご参照ください)

Q 土壌浄化についてもっと知ってほしいので、関連記事を増やしてほしい。

A 当社では「地球の自浄能力を超えた汚染は未来に負の遺産を引き継ぐことになる」という問題意識に基づき、土壌の調査・分析から浄化・モニタリングまでの一貫したサービスをご提案しています。

今年度のCSRレポートでもP.18にて取り組みを紹介していますが、紙面の関係上、記事量を増やすことが難しいため、2012年度は当社ホームページの土壌浄化に関するURLを併記しました。ホームページでは、事業紹介のほかにも、土壌や地下水を浄化するための各種技術について詳しく紹介しています。

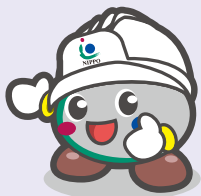


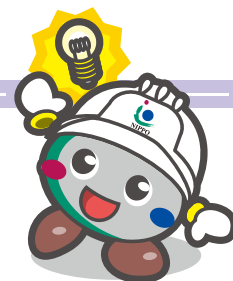
Q 地域活性化の取り組みについて、もう少し充実させたほうがよいのではないのでしょうか？

A 当社では地域活性化に貢献するため、様々な社会貢献活動を行っています。2012年度の社会貢献活動についてはP.21・22で報告しておりますが、そのほかの取り組みとして、事業所で実施している「こども110番の店」への協力が挙げられます。

実施事業所では、地域の子供が相談や助けを求めてきた場合の「対応要領」を掲示・閲覧して、従業員が地域の子供たちを守る体制を整えています。

今後も地域の一員として協力できることに努め、地域活性化に貢献していきます。





Q 協力業者への安全活動の取り組みを記載してはどうでしょうか？

A 当社は施工や輸送などにあたり、様々な協力会社に支えられて事業を実施しています。協力会社の従業員に関しても当社従業員と同様、安全には万全の注意を払って作業にあたってもらっています。

具体的には、各統括事業所で開催している安全大会で当社の安全衛生方針を伝達し、ルールの再確認や協力業者による相互パトロールを行い協力業者の安全管理意識の向上に努めています。



Q 最近、アスファルト舗装の凹凸が多く見かけられます。特に信号機の停車線付近は多いようです。重量オーバーのトラックによるものもあると聞きます。何か良い対策はないものなのでしょうか？

A 信号機の手前は車がブレーキを繰り返しかける所で、走行時と比べ前方車輪に大きな荷重がかかります。さらに数分間ではありますが、ほぼ同じところに車が繰り返し停車することなども凹凸発生要因の一つです。特に夏はアスファルト舗装の温度が60℃以上となると舗装がやわらかくなり、材料が流動してできる「わだち掘れ」が起きやすくなります。

その対策として硬い舗装材料や、温度によりやわらかくなりにくい材料を使用することがあります。一例として「半たわみ性舗装(商品名:ポリシール)」があります。ポリシールはアスファルト混合物とセメントミルクを使用した材料で出来ており、通常のアスファルト舗装に比べ、硬く、温度による流動も少ない製品です。その他、アスファルトに樹脂を添加したアスファルトを使用する場合もあります。

対策工法の適用に関しては、道路管理者(国、県市町村等)の判断によります。

ポリシール参考情報:http://www.nippo-c.co.jp/tech_info/general/SG02029_g.html

http://www.nippo-c.co.jp/news_pdf/vol_89/89_01hokkaido.html

Q 「誘導合図なしでバックしない」への取り組みとは、どのようなものなのでしょうか？

A 重機や車両を誘導合図なしでバックさせることは非常に危険で、人命にかかわると認識しています。そこで、誰でもが緊急時に確実な誘導ができるように誘導教育訓練を定期的に行い、「安全作業4つの誓い」を朝礼時に従事者全員で唱和しています。また、資機材運搬車両が誘導合図なしでバックしないように看板等を設置し運転手に注意喚起しています。



Q 地域にNIPPOのことをもっと知ってもらえるような取り組みはしていますか?「何する会社?」とよく聞かれます。

A 当社は日本全国の事業所で、地域に密着した事業活動を行っており、当社の事業や取り組みをもっと良く知ってもらうために、自社ホームページ(<http://www.nippo-c.co.jp/index.html>)で様々な情報発信をしています。

また、将来を担う子ども向けに「道づくりのひみつ」を作成し、全国の小学校や図書館へ寄贈しているほか、地域住民の方々に施工中の現場に招いて現場見学会を開催する等、当社の事業活動をPRするための取り組みを行っています。



私のCSR特集

2011年度レポートから始めた「私のCSR」コーナーに関して、「身近に感じられる」「興味を持って読めるので、もっと取り上げてほしい」とのアンケート回答を数多くいただきました。

そこで2013年度レポートでは、NIPPO従業員が日常どのようなCSRの取り組みを行っているのかについて、より詳しく紹介いたします。



北海道支店
河田 文彦

私の勤務する北海道では、毎年、冬の厳しい寒さで学校のグラウンドが凍結し、春にはこれが溶けてぬかるみや凸凹になります。ぬかるみや凸凹は、グラウンドで遊ぶ子どもたちのけがの原因にもなり、地域の悩みの種でした。

そこで当社では、道内各地の学校に申し出て、重機を使った整地を行っています。この整地作業には、当社の道路不陸整正技術が活かされており、きれいに整地されたグラウンドで思い切り遊べると学校関係者や子どもたちに喜ばれています。



近年では法律等の「ルール」に加え、営業活動や市場活動の公正さ、情報公開、職場環境、公務員や政治家との関係など、多くの面で高い倫理観が求められるようになってきています。

当支店では社員一人ひとりがこの高い倫理観を持つことができるよう、毎月開催している事業所会議において、「優越的地位の濫用について」や「不正な取引制限(カルテル)について」といった本社総務部から提供されたテーマに沿って勉強会を実施し、公平・公正に業務を遂行するように努めています。



北信越支店
植田 雅之



中国試験所
杉山 加代

私の職場では、「可燃」「不燃」だけでなく新聞紙やダンボール、アルミ缶など細かい種類に分けたごみ箱を配置して分別を徹底し、ごみの排出量削減に努めています。その上で、資源として再利用できるアルミ缶等は月に1回、回収を呼びかけている町内会に提供し、町内会行事の運営費にあててもらっています。毎月2~3キロほどのアルミ缶を提供しています。

小さな事でも従業員一人ひとりが意識して取り組み、おのずから環境への配慮、資源の有効活用につながると考えています。



現場では何かと目先の利益を優先しがちですが、高品質なものをつくること、不具合をなくすことが会社の信頼と長期的な利益につながることを現場にも徹底させる必要があります。そのため、施工前の予防処置、施工中の品質点検実施を通じて不具合防止に努めるとともに、定期的に支店内で不具合事例再発防止勉強会を実施しています。勉強会では「顧客苦情」「不具合事例」などをテーマに従業員同士で講師を分担し、学びあっています。このような取り組みを通じて品質に対する意識を高め、クレームゼロを目指しています。

◀施工中の品質点検作業の様子



東北支店
山田 和弘



四国支店
尾松 靖子

私は長年にわたり綾川町辰巳自治会の会員として、ごみ清掃活動のクリーン作戦に町民の仲間とともに参加しています。今年で約20年を迎え、地域近隣の美化が維持できていることに喜びを感じています。また、この様に地域社会の一員として貢献できる当たり前のことが現在は失われつつありますが、とても大切なことであると確信しています。

そのほかに沿道の草刈り、側溝の清掃作業ならびに讃岐名物「鯖の押し寿司」づくりを通して、地域のコミュニケーション活動の一翼も担っています。このような活動を私自身は一度も社会貢献と思ったことがなく、生き甲斐として感じています。

